学校関係者評価報告書

評価実施日	令和６年３月11日（月）
委員	教育関係者
	福祉関係者
	就労関係者
	医療関係者

評　価　・　提　言　等	提言等に対する改善方策等
１　今年度の最終評価について	
（１）学習指導・言語指導 児童生徒の評価が低い。他の体験を伴う項目は評価が高いため学習や読書活動においても体験したことをきちんと確認をして認識を深めることで自信を付けさせてほしい。	・あらゆる学習活動において個別の指導に十分な時間をとり講座編成等も工夫して一人一人に最適な学習を実践する。 ・朝の会やＳＨＲなどで読書の重要性を説明し時間を確保して読書の習慣を身に付ける。
（２）特別支援教育体制 外部支援の評価が低いが外部支援を受けている人の評価を入れればもっと高いと思われる。外部支援の成果が自校の幼児児童生徒数の減少に関係してくるが大切な役割を担っているので引き続き取り組んでほしい。	・県内の関係機関と連携を深めながら、支援を必要とする各地域の幼児児童生徒の多様なニーズに合わせて聴覚障がい教育のセンター校としての役割を柔軟に果たしていく。
（３）キャリア教育 いろいろな職業の現場を体験して児童生徒自身が職場に適応することだけでなく企業の方が障がい者の就労に対応できるような協力関係を築きたい。障がいの程度に合わせた就労の実現に企業とより連携をしてほしい。	・今まで行ってこなかった児童生徒へ就労に向けた体験のプログラムを企業とともに考え実践していく。
（４）生徒指導 一度、地域に戻った児童生徒が再び本校で学ぶことになったり、地域でうまくいかなかった児童生徒が本校に支援を求めるケースがある。学習、生活、進路などについて手厚い支援が整っているところが魅力である。幼児児童生徒数の減少にとらわれず自信を持ってこの魅力を維持してほしい。	・幼児児童生徒の障がいの状況や必要な支援内容に合わせていつでも対応できる体制を整え、本校で培ってきたノウハウを全職員で共有できるように研修等を進め、幼児児童生徒の支援にあたっていく。
２　学校運営への提言 本校の魅力は、個別に対応ができること、人間関係の距離を近くできること、視覚情報の活用が優れていることがあげられる。それらを対外的にアピールをするべきである。また、保護者の評価は全体的に高いので保護者の高評価それ自体を発信していけばよい。	・本校で開催する行事の紹介や参加を依頼するだけでなく、外部の行事に参加したときにも本校の魅力を伝え、本校の支援を発信していく。